
第三回 『地域行政の現場から』

(2016年12月10日)

報告者：上川 光治（東京都児童相談センター相談援助課長）

対論者：鈴木 潔（本学法学部准教授）

(於 神田校舎 1 号館205教室)

森川幸一法学研究所長：皆さん、こんにちは。本日の公開講座を主催しております専修大学法学研究所の所長を務めております法学部の森川と申します。

当法学研究所では、昨年、一昨年と『法律学・政治学^{フロント・ライン}の最前線』という計6回の公開講座を実施して参りまして、今年度からは新たに、『現場からの法律学・政治学』というタイトルで、現場の第一線で活躍されている実務家の方々をお招きして、本学の研究者である先生方と対話していくという試みを計9回企画しております。本年度は3回実施する予定でして、既に2回を終了しております。第一回が「国際法・国際政治の現場から」、第二回が「刑事法・刑事政策の現場から」でした。本日は今年度の最終回として「地域行政の現場から」ということで、東京都の児童相談センター相談援助課長をなさっている上川光治様にお話を頂き、本学法学部で行政学を担当しております鈴木潔准教授と対話をして頂くこととなっております。

それでは、鈴木先生にマイクをお渡し致しますので、よろしくお願い致します。

鈴木：本日はお寒い中、多くの方にご参集頂きまして、心より感謝申し上げます。わたくし、本日のコーディネーターを務めます法学部の鈴木潔と申します。

最初に、本日の講師の方をご紹介します。東京都児童相談センター相談援助課長の上川光治先生です。上川先生は、東京都に入庁後、知的障害者施設、高齢者特別養護老人ホーム、児童養護施設、児童相談所、東京都児童相談センター児童福祉相談専門課長、品川児童相談所長を歴任されました。ご定年になった後、再任用により、現職に就任されまして、現在も児童福祉の最前線でご活躍をされております。上川先生、どうぞよろしくお願い致します。

さて、本日の公開講座のテーマは、「東京都における児童虐待の現状と課題」というこ

第三回『地域行政の現場から』

とでございます。全国の児童相談所が昨年度（平成27年度）対応しました児童虐待の件数は前年度比16%増（速報値）ということで、10万3260件に達しました。過去最多を更新しておりまして、15年前と比較しても、どんどん増え続けているのが現状でございます。一方で、児童相談所や児童福祉司の数はほとんど増えておりません。これまでに児童福祉法が改正されたり、国でも自治体でも一定の対応をしたりしておりますけれども、児童虐待問題の実態は我々一般市民にはなかなか分かりにくいところがあるかと思います。本日は、その辺りも含めて、上川先生から詳しくご説明を賜りたいと考えております。

本日の進め方でございますけれども、まず上川先生に1時間ほどお話を頂いてから、私の方から若干のコメントを致します。その後、10分間休憩を挟みます。その10分間で、もし上川先生にご質問がありましたら、皆様のお手元にある用紙にご記入頂きまして、私の方に提出して頂きたいと思っております。そして、休憩時間終了後、30分くらい質疑応答の時間を設けて、頂戴したご質問にお答え頂くことに致します。

では、早速でございますが、上川先生からご講演を賜りたいと存じます。上川先生、よろしく願い申し上げます。